

かわらばん

まちえんながの

第 11 号

12月20日(金)
発行
まちの縁側育み
プロジェクトながの

長野市ボランティア
センター内
TEL 227-3707
FAX 224-1513

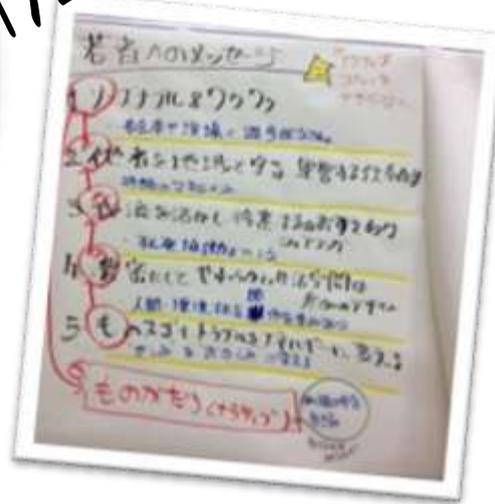


12月1日、延藤安弘先生の愛知産業大学院退官に伴う公開最終講義が行われ、「まちの縁側育みプロジェクトながの」のメンバー6名が参加しました。

講義の幻燈会では、コミュニティデザインの始まりは、古事記であり、ワクワクどきどき、おどろきと笑い想像力で「あそこに行けば何かえーことあるんやないか!」、自分たちの町は自分たちで育むんやと、いつもに増しての名調子!! 二時間におよぶ幻燈に、会場も熱気に包まれました。そして、ヒトとヒトのつながり・・・縁が輪を育むまちの縁側として長野のまちの縁側が多数紹介されました。

物語の日にぜひ
目撃してください
ぜひ来てください

まちの縁側育みプロジェクトです!



助手の名畑恵さん
徹夜で準備作業!お疲れ様です

講義のまとめでは・・・

コミュニティデザインでは、
人間・空間・社会の間のウズを作るプロセスは物語である。
コミュニティデザインの4つの柱として
① 歓喜咲楽(よろこびわらいあそび)
② 私初協働(自ら主となりまちづくりとつながる)
③ 話し合い知恵を出し合う(対話と共生)
④ トラブルをドラマに変える(軋みを可笑しみに変える)と、教えていただきました。そして、コミュニティは今日では失われた楽園の異名であるが、新しい状況の下でナラティブコミュニティデザインをつむぐ実践と研究にかかわりつづけたいと結ばれ、今後は、愛知淑徳大学で新たに出發されるとのことでした。

最終講義に参加して・・・

長野での取り組みの意味を再確認できたような気がしました。長年取り組んできたことで、まさに長野のまちの縁側物語が紡がれ、未来が開けていくように感じた瞬間でした。延藤先生と共に歩む明るい未来です。



会場となった「おらさきかん」(愛知県岡崎市藤川駅前)は、住民参加で建てられた交流センターです。活動室、調理室、子供の遊び場などの他に吹き抜けの明るいホールには、イスやテーブルが置かれ、学生のみなさんが勉強や打ち合わせに使ったり、ご飯を食べたりと、とても居心地のよい緩やかな空間でした。

やじきた縁遊記

てくてくてく・・・



参加したメンバー

まちの縁側を推進するためにも、延藤先生の最終講義を聞いて学ぼうということで、参加したプロジェクトのメンバー。意気込んで、いざ岡崎へ！会場の最寄り駅藤川までは、3 回乗り換え、右往左往しながらも、現地までの約4時間、ほとんどしゃべりっぱなし。まさかの車内ミーティングでした。そんな様子を『やじきた縁遊記』として、ちょこつとご紹介します。



名鉄電車の中、吊り下げ広告をパチリ・・・何を撮っているのかと思いきや、「これは、車いすバスケットの漫画ですか?」って、K さんの撮影魂に脱帽



キャベツの千切りが山のように盛られたラーメンで腹ごしらえ



おやおや?景色はまるで長野のよう・・・丘の上に愛知産業大学が見えました。



お知らせ

ボランティアの集いに参加しましょう!

ボランティアの集い(主催:ボランティアのつどい実行委員会)が2月24日(日)に行われます。まちの縁側を実践されているみなさん、ボランティアの集いに参加しませんか!! つどいでは、様々なボランティア市民活動をされているグループおよび個人の方が集まります。交流することで、お互いの活動が広がり豊かなものになります。みんなでつながって、その思いを未来へつなげましょう

問合せ先 長野市ボランティアセンター 026-227-3707

「ここは縁側だよ」とわかる縁側プレート

まちの縁側は、いろいろなところにあります。お店、個人宅、公共の場・・・その場は多種多様ですが、「ここは縁側だよ」とわかるように看板やまちの縁側プレートを置いたり飾ったりしています。縁側会員のみなさんが知っているまちの縁側に縁側プレートがないようでしたら、ご一報ください。



レジに置かれた縁側プレート

今年(2012年)の冬は、早くから大寒並みの寒さで、長野の冬は長く、気持ちもち沈みがちですが、晴れた日の朝、太陽に照らされて光る北アルプスの山の美しさは格別です。松代のある地区に住むKさん、辛いことがあっても、アルプスを見て忘れたものよ。」と、話してくれました。



まちの縁側育みプロジェクトながの
電話 ☎026-227-3707
(担当 西沢)

*まちの縁側育みプロジェクトながのでは、まちの縁側を伝え広める活動をしています。地域に Outreach 縁側の紹介や研修を行っています。縁側に
関心のある方はご一報ください!